東京大學泌尿器科教室に於ける 1952 年度外來, 入院患者及び手術々式の統計的觀察

東京大學醫學部泌尿器科教室
(主任 市川篤二教授)

教 授	市 川	篤 修	二 道
講 師	高 井	藤 修	元 達
助 手	伊 藤	一 直	
研 究 生	渡 邊		

STATISTICS ON OUTPATIENT, INPATIENTS AND OPERATIONS IN UROLOGY DEPARTMENT OF THE UNIVERSITY OF TOKYO IN 1952.

Tokuji Ichikawa, Shudo Takai, Kazumoto Ito and Naotatsu Watanabe.

From the Urology Department, Medical Faculty, University of Tokyo
(Director: Prof. Dr. T. Ichikawa)

I 緒 言

我々は東京大學泌尿器科教室に於ける外來, 入院患者及び手術々式に就いて, 1946年より1950年に至る滿5年間の統計的觀察を日泌尿會誌, 42卷9號に, 又1951年度のそれを同誌43卷9號に發表した. 本論文に於ては1952年度の統計的觀察を報告するが, 各種疾患の消長と當教室の業績の推移についての考察を便ならしむるために, 各種材料の統計的取扱ひの方法は全く既報のそれを踏襲した.

II. 外來患者

1952年(昭和27年)滿1年間に東京大學泌尿器科外來を訪れた新來患者總數は男女合計3,715名で, そのうち男2,754名, 女961名である. 男女の比は2.87:1である.

3,715名の新來患者について主要疾患の觀察をしてみると, 淋疾510例(13.7%), 泌尿生殖器結核474例(12.7%), 非結核性膀胱炎420例(11.6%), 尿路結石症110例(3.7%), 前立腺腫瘍95例(2.5%), 膀胱腫瘍47例(1.3%), 其他2,059例(55.2%)である.

1. 淋 疾

淋疾患者は實數に於ては年々著しい變動はないが, 外來患者總數に對する百分率からみると年々

減少し, 淋疾治癒判定のための淋菌検査の患者數が増加して來た.

次に淋疾患者實數(合併症ある時は主たる診斷の項に入れた)について男子淋疾493例を分類すると急性淋疾43例, 慢性淋疾6例, 淋疾後尿道炎57例, 尿道狹窄14例, 前立腺炎4例, 淋菌検査369例, 合計493例である. 女子淋疾17例に就いて分類すると子宮内膜炎6例, バルトリン腺炎1例, 淋菌検査10例, 合計17例である. 男子淋疾の合併症は5例で副睪丸炎, 前立腺炎, 龜頭包皮灸, 混合下疳, 尿瘻の夫々1例宛である(第1表).

2. 泌尿生殖器結核

泌尿生殖器結核は1946年以來患者總數に對する百分率に於ては減少の傾向を示している. 1952年度に於ける外來結核患者實數に就いて分類すると次の様になる. 左腎結核は男42例, 女29例, 計71例. 右腎結核は男42例, 女28例, 計68例. 兩側腎結核は男12例, 女9例, 計21例. 腎結核手術後單腎者は男69例, 女61例, 計130例. 腎結核は男23例, 女16例, 計39例. 腎結核(?)は男2例, 女3例, 計5例.

左側副睪丸結核45例, 右側副睪丸結核35例, 兩側副睪丸結核14例, 副睪丸剔除後の患者28例, 前立腺結核8例, 精囊腺結核1例, 尿道結核3例, 精管結核1例, 陰莖結核1例. 泌尿生殖器結核は

第1表 男子淋疾の合併症

主疾患	数	合併症						計
		副睪丸炎	前立腺炎	龜頭包皮皮炎	混合下疳	尿瘻		
急性淋疾	43	1	0	1	1	0		3
慢性淋疾	6	0	1	0	0	0		1
淋疾後尿道炎	57	0	0	0	0	0		0
尿道狹窄	14	0	0	0	0	1		1
前立腺炎	4	0	0	0	0	0		0
淋菌検査	369	0	0	0	0	0		0
計	493	1	1	1	1	1		5

女子淋疾	17
子宮内膜炎	6
バルトリン腺炎	1
淋菌検査	10

第2表 泌尿生殖器結核とその合併症

主疾患	男	女	計	合併症														計
				膀胱結核	左副睪丸結核	右副睪丸結核	兩側副睪丸結核	副睪丸結核手術後	精囊腺結核	前立腺結核	精管結核	尿道狹窄	萎縮膀胱	膀胱腸瘻				
左腎結核	42	29	71	68	1	7	3	0	6	10	1	0	0	0				96
右腎結核	40	28	68	59	1	1	4	0	3	8	0	0	0	0				76
兩側腎結核	12	9	21	13	2	0	3	0	1	3	0	1	0	0				23
腎結核手術後單腎	69	61	130	41	7	4	4	6	5	12	1	0	2	0				82
腎結核	23	16	39	37	0	1	1	1	2	8	0	0	0	1				51
腎結核?	2	3	5	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0				3
左副睪丸結核	45	—	45	0	0	0	0	1	6	9	1	0	0	0				17
右副睪丸結核	35	—	35	0	0	0	0	4	3	8	2	0	0	0				17
兩側副睪丸結核	14	—	14	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0				6
副睪丸結核手術後	28	—	28	0	0	0	0	0	4	3	0	0	0	0				7
精囊腺結核	8	—	8	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0				5
尿道狹窄	1	—	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
精管結核	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
陰莖結核	2	—	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0				1
陰莖結核	4	—	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
計	328	146	474	220	11	14	15	12	37	65	6	1	2	1				384

第3表 尿路結石

疾患名	男	女	計
腎結石	23	7	30
尿管結石	50	12	62
膀胱結石	19	0	19
尿道結石	6	0	6
計	98	19	117
患者實数	93	17	110

第4表 非結核性膀胱炎

疾患名	男	女	計
急性膀胱炎	70	129	197
出血性膀胱炎	9	11	20
滲出性膀胱炎	1	0	1
葡萄球菌性膀胱炎	0	1	1
大腸菌性膀胱炎	2	1	3
亜急性膀胱炎	8	11	19
慢性膀胱炎	23	46	69
濾胞性膀胱炎	0	10	10
膀胱三角部炎	7	32	39
尿道膀胱炎	0	61	61
計	120	300	420

第5表 前立腺腫瘍

疾患名	例数
前立腺肥大症	77
前立腺癌	18
計	95

第6表 腎及び尿管疾患

疾患名	男	女	計
馬蹄鐵腎	2	2	4
腎缺損	1	0	1
重複腎盂尿管	0	1	1
尿管下端囊胞様擴張症	1	2	3
尿管膀胱外開口	0	4	4
囊胞腎	6	4	10
游走腎	10	14	24
腎外傷	2	1	3
腎盂擴張症	1	0	1
腎下垂症	2	6	8
腰部位置異常	2	2	4

水腎症	5	6	11
膿腎	0	7	7
腎周囲炎	1	0	1
腎盂炎	0	5	5
腎盂腎炎	1	0	1
腎出血	29	15	44
腎炎	5	0	5
ネフロゼ	0	2	2
腎腫瘍	10	5	15
腎被膜腫瘍	0	1	1
尿管スパスムス	1	0	1
尿管屈曲症	1	1	2
尿管腔瘻	—	7	7
尿管外傷	1	0	1
尿管ポリープ	1	0	1
尿管腫瘍	2	1	3
計	84	86	170

第7表 膀胱疾患

疾患名	男	女	計
膀胱腫瘍	37	10	47
膀胱周囲炎	0	2	2
膀胱白板症	0	3	3
背髄膀胱	11	0	11
膀胱神経症	4	2	6
萎縮膀胱	1	0	1
膀胱憩室	1	0	1
膀胱外反症	1	0	1
膀胱直腸膿	1	0	1
膀胱腔瘻	—	6	6
膀胱	1	1	2
膀胱異物	4	0	4
膀胱括約筋緊張症	3	0	3
尿管膀胱炎	0	1	1
膀胱脱	0	1	1
頸管癌膀胱内浸潤	—	1	1
計	64	27	91

第8表 尿道疾患

疾患名	男	女	計
尿道上裂	1	—	1
尿道下裂	18	—	18
重複尿道	2	0	2
尿道憩室	1	0	1
尿道脱	0	1	1
單純性尿道炎	82	10	92
尿道周圍膿瘍	1	0	1
尿道狹窄	36	0	36
尿道腔瘻	—	1	1
尿道出血	1	0	1
尿道破裂	1	0	1
尿道異物	1	0	1
尿道ポリープ	0	1	1
尿道乳頭腫	0	1	1
尿道癌	0	4	4
尿道カルンクルス	—	9	9
計	144	27	171

第9表 睪丸, 副睪丸, 精囊, 精囊腺,

前立腺(腫瘍を除く)の疾患

疾患名	例数	疾患名	例数
睪丸萎縮及び發育不全	3	精索水瘤	3
睪丸附屬體	1	精索靜脈瘤	6
潛伏睪丸	15	精液瘤	11
單一睪丸	2	精液浸潤	1
睪丸外傷	1	精管炎	2
睪丸血腫	2	斷種	4
單純性副睪丸炎	56	精阜出血	1
睪丸炎	1	精阜肥大症	1
睪丸梅毒	1	單純性前立腺炎	44
睪丸腫瘍	4	前立腺膿瘍	2
陰囊水瘤	25	前立腺症	10

計 196 例

第10表 陰莖, 陰囊及び女子外陰部疾患

疾患名	男	女	計
類宦官症	3	—	3
包莖	155	—	155
龜頭包皮炎症	21	—	21
陰莖外傷	1	—	1
陰莖硬結	4	—	4
陰莖糜爛潰瘍	13	—	13
陰莖海绵體炎	1	—	1
陰莖乳頭腫	1	—	1
陰莖癌	3	—	3
尖圭コンジローム	24	0	24
軟性下疳	17	0	17
硬性下疳	1	0	1
混合下疳	4	0	4
第四性病	1	0	1
陰部疱疹	3	0	3
陰門腔炎	—	16	16
トリコモナス腔炎	—	2	2
尿管瘻	1	0	1
其他の外陰疾患	8	2	10
計	261	20	281

第11表 其の他の疾患(其の1)

疾患名	男	女	計
性的神経衰弱	61	0	61
陰萎	8	—	8
早泄	6	—	6
遺精	1	—	1
精液漏	14	—	14
前立腺漏	6	—	6
血精液症	9	—	9
無精子症	8	—	8
減精子症	2	—	2
神経性頻尿	27	22	49
夜尿症	36	25	61
晝夜尿症	3	2	5
尿失禁	3	8	11

尿閉	2	3	5
排尿障害	7	4	11
無尿症	3	3	6
血尿	19	4	23
乳糜尿	3	0	3
血乳糜尿	1	2	3
ヘモグロビン尿	0	1	1
蛋白尿	5	0	5
鹽類尿	3	1	4
計	227	75	302

第12表 その他の疾患(其の2)

疾患名	男	女	計
横痃	2	0	2
潜伏梅毒	24	12	36
神経梅毒	1	0	1
男子不妊症	19	—	19
婦人科的疾患	—	87	87
皮膚科的疾患	26	4	30
他科疾患	49	13	62
泌尿器科の正常	527	126	653
腹部腫瘍	8	6	14
疝痛	4	5	9
計	660	253	913
總計(第6表より第12表)	1636	488	2124
患者實數	1625	481	2106

患者總數 3715

男女比 = 2754:961=2.87:1

淋疾	510 (13.7%)
泌尿生殖器結核	474 (12.7%)
非結核性膀胱炎	420 (11.6%)
尿路結石症	110 (3.0%)
前立腺腫瘍	95 (2.5%)
膀胱腫瘍	47 (1.3%)
其の他	2059 (55.2%)

第13表 入院患者に於ける腎及び尿管疾患

腎畸形	1	腎盂腎炎及び腎盂炎	2
囊胞腎	4	尿管結石	21
游走腎	3	尿管膀胱外開口	4
腎腰部位置異常	1	尿管瘤	2
水腎症	8	尿管狹窄	3
腎結核	95	尿管腫瘍(原發)	1
腎出血	7	尿管ポリープ	1
腎外傷	1	尿管斷端腫瘍	2
腎腫瘍	4	腎剔除後瘻孔	1
腎結石	20		

第14表 入院患者に於ける膀胱疾患

慢性膀胱炎	3	萎縮膀胱	2
膀胱結石	3	膀胱憩室	1
膀胱腫瘍	23	膀胱外反症	1
脊髄膀胱	1	膀胱周圍炎	1
子宮癌手術後排尿障害	2		

第15表 入院患者に於ける尿道外陰部疾患

尿道下裂	7	尿道異物	1
尿道損傷	1	尿道辨膜形成	1
尿道狹窄	14	陰莖瘻	1
尿道癌	1	包莖	1

第16表 入院患者に於ける睪丸、副睪丸、前立腺疾患

潜伏睪丸	2	前立腺癌	10
睪丸腫瘍	2	前立腺炎	1
副睪丸結核	8	前立腺症	3
前立腺肥大症	30		

第17表 其の他

尿管腔瘻	2	無尿症	5
膀胱腔瘻	4	乳糜尿症	1
膀胱腸瘻	2	子宮癌の膀胱侵襲	1

總計 316

入院患者實數 290

第18表 手術々式

腎剔除術	104	試験開腹術	2
腎部分切除術	5	人工肛門設置術	3
腎切石術	7	外尿道切開術	5
腎盂切石術	7	膀胱瘻術	4
尿管切石術	9	尿道下裂索切除術	6
膀胱全剔除術	14	尿道形成術	2
尿管腸吻合術	18	睪丸剔除術	4
前立腺剔除及び全剔除術	33	睪丸剔除淋術	1
半腎切除術	3	巴腺廓清術	1
腎瘻術	1	睪丸固定術	1
腎固定術	1	高位切開膀胱頸部切除術	1
囊胞腎穿刺術	4	高位切開尿管瘤剔除術	2
水腎形成術	1	副睪丸剔除術	2
重複尿管結紮術	1	尿道瘻閉鎖術	3
尿管瘻術	7	尿管膀胱移植術	1
膀胱結石摘出術	1	兩側尿管疎通術	1
膀胱腫瘍剔除、ラドン打込	3	膀胱腸瘻閉鎖術	1
尿管及び膀胱壁切除術	4	腎剔除後瘻孔閉鎖術	1
尿管剝離術	2	尿道辨膜切除術	1
尿管形成術	1	包皮形成術	2
		合計	268

手術を受けた患者數 243人

手術の回數 268回

第19表 内視鏡的操作と小手術

(A) 内視鏡的操作		右側	26
尿管カテーテル法	258	左側	25
内視鏡の電氣凝固及び切除	42	兩側	5
膀胱碎石術	9	除睪術	12
其の他	22	右側	4
(B) 動脈撮影	27	左側	7
動脈撮影	27	兩側	1
靜脈撮影	5	ウインケルマン手術	8
(C) 小手術		精管切斷術	7
腹膜後腔氣體送入法	123	尿道形成術	1
氣腎法	2	電氣凝固術	22
包莖手術	76	電氣切除術	7
副睪丸剔除術	56	精囊腺撮影術	6

全體として男子 328 例, 女子 146 例で總數 474 例となる。これらと合併症との關係を明らかにしたものが第 2 表である。

3. 尿路結石症と非結核性膀胱炎

1952 年度の尿路結石症の總數は 110 例であつて合併症例 7 例を含めて 117 例となる。結石の位置診斷について分類すると次の通りである。腎尿管結石 92 例, 膀胱結石 19 例, 尿道結石 6 例, 計 117 例である。上部尿路結石の數は年々増加の傾向を示している。

非結核性膀胱炎の患者數は 420 例で男 120 例, 女 300 例で, 診斷別では急性 197 例, 慢性 69 例, 尿道膀胱炎 61 例, 其他である (第 3, 4 表)。

4. 前立腺腫瘍

前立腺腫瘍は前立腺肥大症 77 例, 前立腺癌 18 例, 計 95 例である。前年度の 63 例より更に増加し年々増加の傾向を示している (第 5 表)。

5. 其の他の疾患

淋疾, 泌尿生殖器結核, 尿路結石症, 非結核性膀胱炎, 前立腺腫瘍を除いた外來患者に就いて主として臓器別に分類したものが第 6 表より第 12 表迄に示したものである。

III. 入院患者

1952 年の入院患者總數は 290 名で, 主要疾患別入院患者實數と百分率は次の通りである。腎結核は 95 例 (32.64%), 前立腺腫瘍は 40 例 (13.74%) でその内譯は前立腺肥大症 30 例, 前立腺癌 10 例である。膀胱腫瘍は 23 例 (7.90%) である。入院患者の疾患を臓器別に分類すれば第 13 表より第 17 表に示す通りである。

IV. 入院患者に施行せる手術の統計的觀察

1952 年の入院患者手術施行例は 243 人であつて, 手術總數は 268 回となつている。

このうち主要手術について考察すると, 腎切除術 104 回, 腎部分切除術 5 回, 腎切石術 7 回, 腎盂切石術 7 回, 尿管切石術 9 回, 膀胱全切除術 14 回, 尿管腸吻合術 (膀胱全切除術と同時に施行せるものを含む) 18 回である。前立腺切除術及び全切除術は 33 回で, 恥骨後式切除術 (これには Millin の術式の變法を含む) 28 回, 恥骨後式全切除術 2 回, 恥骨上式 2 回, 會陰式 1 回である。これら主要手術回數と手術を受けた患者實數に對する百分率との關係は次の如くである。腎切除術 104 回

(42.8%), 腎, 腎盂, 尿管切石術 23 回 (9.45%), 膀胱全切除術 14 回 (5.7%), 尿管腸吻合術 18 回 (7.4%), 前立腺切除術及び全切除術 33 回 (13.5%) である。入院患者に施行せる手術々式を表示すると第 18 表の如くである。

V. 内視鏡的操作と小手術

前項では入院患者の手術例のみの觀察であつたが, 外來手術を受けて即日歸宅するか, 1, 2 日假入院せしめたものは除外した, この項では外來患者に施行した包莖手術, 除睪術, 副睪丸切除術等の小手術と, 入院, 外來患者に施行せる内視鏡的操作, 血管撮影について觀察すると第 19 表の如くである。

VI. 總括並びに結論

東大泌尿器科教室に於ける 1952 年度外來患者, 入院患者及び手術々式について統計的觀察を試みた。

(1) 外來患者に就いて

外來, 新來患者總數 3,715 名で, そのうち男 2,754 名, 女 961 名である。男女の比は, 2.87:1 である。淋疾患者では急性淋疾の減少と淋疾治癒判定のための淋菌検査症例の増加が前年度に比し更に著明である。泌尿生殖器結核患者は總數に於ては前年度より増加しているが全患者數に對する百分率に於ては減少の傾向が續いている。尿路結石症に於ては上部尿路結石が前年度より更に増加している。

(2) 入院患者に就いて

入院患者總數 290 例中腎結核 95 例, 前立腺腫瘍 40 例, 膀胱腫瘍 23 例で夫々入院患者の 32.64%, 13.74%, 7.90% を占めている。

(3) 手術々式に就いて

入院患者手術例 243 名に於て, 腎切除術 104 回 (42.8%), 腎部分切除術 5 回 (2.07%), 尿管腸吻合術 18 回 (7.4%), 膀胱全切除術 14 回 (5.7%), 前立腺切除術及び全切除術 33 回 (13.5%), 腎, 腎盂, 尿管切石術 23 回 (9.45%) である。

外來に於ける小手術は包莖手術 76 回, 副睪丸切除術 56 回, 除睪術 12 回である。

本年度特に新しいものとして動脈撮影術 27 回, 靜脈撮影術 5 回, 腹膜後腔氣體送入法 123 回がある。内視鏡的操作法としては, 尿管カテーテル法 258 回, 内視鏡的電氣凝固及び切除が 42 回である。